

- beetles (Coleoptera, Coccinellidae) in plant formations in the Russian Far East. Sukunahikona, Special Publication of the Japan Coleopterological Society, Osaka, 1: 167–174.
- LeSage, L., 1991. "Coccinellidae". pp. 485–494. Stehr, F. W. ed., *Immature Insects Volume 2*, Kendall/Hunt Publishing, USA. 975 pp.
- Leskosky, R. J. & M. R. Berenbaum, 1988. Insects in animated films. *Bulletin of the Entomological Society of America*, 34: 55–63.
- Majerus, M. 1994., *Ladybirds*. Harper Collins Publishers, London. 345 pp.
- 三橋 淳, 2000a. 文化昆虫学とは. 遺伝, 54: 14–15.
- 宮ノ下明大, 2005. 映画における昆虫の役割. 家屋害虫, 27: 23–34.
- 宮ノ下明大, 2015. 暮らしの中のテントウムシデザインとは何か? その図像と鞘翅斑紋パターンの特徴. *Urban Pest Management*, 5: 61–67.
- 小畑晶子, 1998. テントウムシグッツ・コレクション. 昆虫と自然, 33 (4) : 26–29.
- 小畑晶子, 2009. “テントウムシの民俗学”. pp. 116–117. 日本環境動物昆虫学会・生物保護と環境アセスメント調査手法研究部会 (編), テントウムシの調べ方, 文教出版, 東京. 148 pp.
- 斉藤慎一郎, 1996. 虫と遊ぶ – 虫の方言誌. –. 大修館書店, 東京. 294 pp.
- 阪本優介, 2018. テントウムシハンドブック. 文一総合出版, 東京. 88 pp.
- 桜谷保之, 1998. 多彩な面を持つテントウムシ類. 昆虫と自然, 33 (4) : 2–4.
- 桜谷保之, 2009. “テントウムシグッツ”. pp. 118–121. 日本環境動物昆虫学会・生物保護と環境アセスメント調査手法研究部会 (編), テントウムシの調べ方, 文教出版, 東京. 148 pp.
- 佐原ミズ, 2007–2010. マイガール 1–5 巻. パンチコミックス, 新潮社, 東京.
- 佐佐木幸綱, 1989. “瓢虫”, p. 380–381. 山本健吉 (編), 大歳時記 第一巻 (句歌春夏). 集英社, 東京. 531 pp.
- 佐々治寛之, 1985. “テントウムシ科”. pp. 245–270. 黒沢良彦・久松定成・佐々治寛之 (編), 原色日本甲虫図鑑 III, 保育社, 大阪. 500 pp.
- 瀬戸口明久, 2004. “害虫観の近代”. pp. 286–306. 上田哲行編, トンボと自然観. 京都大学学術出版会, 京都. 505 pp.
- 高田兼太, 2014. はじめての文化昆虫学 – みんなで文化昆虫学の研究をしよう! きべりはむし, 36 (2) : 26–27.
- 高田兼太, 2010a. 文化甲虫学: 甲虫の文化昆虫学概説. 甲虫ニュース, (170) : 13–18.
- 高田兼太, 2010b. 甲虫と人間の文化 – コガネムシ科の文化昆虫学概説. 甲虫ニュース, (172) : 27–31.
- Takada, K., 2010. Popularity of different coleopteran groups assessed by Google search volume in Japanese culture – Extraordinary attention of the Japanese to “Hotaru” (lampyrids) and “Kabuto-mushi” (dinastines) (Cultural entomology). *Elytra*, 38: 299–306.
- 高田兼太, 2011. 甲虫と人間の文化 – ホタル科の文化昆虫学概説. さやばねニューシリーズ, (2) : 25–31.
- Takada, K., 2013a. Exploitation of flagship species of scarabaeid beetles with application of analyzed results on cultural entomology. *Applied Ecology and Environmental Science*, 1: 1–6.
- Takada, K., 2013b. Arrival of the Insect Movie Stars – Commentary on the animated movie “A Bug’s Life” from the aspect of cultural entomology providing insight for instruction of entomological knowledge, insect conservation and management practice. pp. 181–187. Costa Neto, E. M. ed., *Anais do I Simposio Brasileiro de Entomologia Cultural* 2013.
- Takada, K., 2013c. Ladybug-shaped chocolate on a mousse cake bought at a bakery in Amagasaki City, Japan. *Elytra*, New Series, 3: 195–198.
- Takada, K., 2014. Use of ladybugs as a urinal target in a water closet of a variety shop in Osaka, Japan. *Elytra*, New Series: 4: 313–314.
- 上田哲行, 2004a. “日本人はトンボをどのように見てきたか”. pp. 210–333. 上田哲行編, トンボと自然観. 京都大学学術出版会, 京都. 505 pp.
- 上田哲行 2004b. “現代日本人の自然観の構造 – 虫・カミ・ヒト・自然”. pp. 465–487. 上田哲行編, トンボと自然観. 京都大学学術出版会, 京都. 505 pp.
- Waldbauer, G., 2009. *Fireflies, honny and, silk*. University of California Press, USA. 194 pp.
- 遊鷹正秀, 2004. “俳句にみる自然観の変遷 – 昆虫にかかわる用法から”. pp. 377–407. 上田哲行 (編), トンボと自然観. 京都大学学術出版会, 京都. 504pp.
- Yurtsever, S. 2001. A preliminary study on the ladybirds (Coleoptera: Coccinellidae) of Edirne in north western Turkey. *Turkish Journal of Zoology*, 25: 71–75.

(2019年8月12日受領, 2019年11月30日受理)

【短報】フタスジヒメテントウを島後で採集

フタスジヒメテントウ *Horniolus fortunatus* (Lewis, 1896) は, 長崎から得られた1個体を基に記載された比較的稀なテントウムシで, 日本 (北海道, 本州, 四国, 九州), 中国, 韓国から記録されている (Jung *et al.*, 2019).

中野・阪本 (2018) は, 愛知県においてイヌシデの樹幹から夜間に複数個体を採集していることを報告し, 城戸 (2014) は, 本種をカナクギノキの樹皮下から採集し, 「大木の幹をはっているものを見ることが多い」としている. また, 韓国ではケヤキの幹から採集されたとのことである (Jung *et al.*, 2019). 分布については, 西日本で確認されることが多いようだが, 山内 (1996) は青森県からの記録



図1. フタスジヒメテントウと確認されたナナカマドの根際.

を報告している。北海道の分布は“Karikatsu”（狩勝のこたか？）で採集された記録があるものの（Sasaji, 1971），分布疑義のようである（松本ほか，2012）。

本報告では，フタスジヒメテントウが島根県隠岐の島町のナナマカドから採集された状況を報告する。島根県初記録ならびに隠岐諸島初記録となる。

4 exs., 島根県隠岐の島町鷺ヶ峰，21. V. 2019，吉富博之採集，愛媛大学ミュージアム・ホシザキグリーン財団保管。

なお，ナナマカドの根際にケアリ属の1種 *Lasius* sp. が蟻道を形成しており，その周辺で日中に採集した。蟻道を崩すと中からはコナカイガラムシ科のクリシコックス属の一種 *Crisicoccus* sp. がみつかった。

末筆ながら，カイガラムシを同定してくださった田中宏卓博士にお礼申し上げる。本報告はホシザキグリーン財団の共同研究の一環で行われた。

引用文献

- Jung, S. W., M. J. Lee, & Y.-H. Kim, 2019. New record of ladybird beetle (Coleoptera: Coccinellidae) in Korea, with a checklist of the Palaearctic species of *Horniolus* Weise. *Journal of Asia-Pacific Biodiversity*, early view.
- 城戸克弥，2014. 福岡県で採集した甲虫類 (19). *KORASANA*, (82) : 35–38, pls. 1–3.
- 松本英明・堀 繁久・佐々木恵一・柏崎 昭，2012. 北海道のテントウムシ科. *jezoensis*, (38) : 39–76.
- 中野文尊・阪本優介，2018. クロジュウニホシテントウおよびフタスジヒメテントウの生態に関する知見. *月刊むし*, (571) : 42–44.
- Sasaji, H., 1971. *Coccinellidae* (Insecta: Coleoptera). *Fauna Japonica*. Tokyo: Academic Press of Japan. 345 pp. + 16 pls.
- 山内 智，1996. 青森県のテントウムシ科. *青森自然誌研究*, (1) : 17–23.

(吉富博之 愛媛大学農学部昆虫学研究室)

【短報】水溜りの水面で得られた甲虫 ―水の面の何が甲虫を引き寄せた一例―

筆者は以前，ゲンゴロウ科の甲虫が車のボンネットや林道の白い石に飛び込んだ事例を報告したことがある（西田，2000）。この現象は水生甲虫が日中に飛翔しているときに光るボンネットや大きな白い石を水面と間違った行動ではないかと考えている。なお，ゲンゴロウのこのような行動は，筆者だけがたまたま目撃できたわけではない。海外の文献でも「飛んでいるゲンゴロウは水面と間違えて車や温室に突っ込んでしまう」と述べられていることを付け加えておく（Preston-Mafham, 2004）。

数年前，筆者は全く逆の事例を観察した。九州山

地で4畳半程度の水溜りの水面に多くの陸生甲虫が浮いているのを観察したのである。原因不明ながら，筆者長年の甲虫採集経験の中でも稀有の観察であり，日中に何かに引き寄せられて入水したのではないかと思われたので，本稿にて書き留めておきたい。

2017年5月17日午後4時半ごろに熊本県八代市泉町の白鳥山で採集した帰りに，標高約1,200 mの車道わきにある傾斜地の水溜り（図1と2）にゴミムシなどの水辺の甲虫を求めて立ち寄った。水溜りは転石の多い急斜面に流れる水が道路にせき止められてできたもので，面積はおおよそ10 m²，見た目の水深は30～40 cmと深くはなく，一角から流れ出ているためか，全体を回るゆっくりとした楕円を描くような水流があった。そして，水辺で虫を探し出して間もなく水中に落ちた細い枯れ枝にマグソコガネの一種がしがみついているのを見つけた。付いていたシカの糞とともに転がってきたのかとさして気に留めなかったが，続けざまに見つけたのでなんだろう？と思いながら水辺から水面に目線を変えたところ，他にも虫が浮いていることに気が付いた。最終的に30分程度の時間で15科34種65頭の甲虫目



図1. 水溜りの遠景.



図2. 水溜りの近景.